

現地直撃! 「首里手・泊手・那覇手・上地流・古武道」達人の空手と“島人ぬ宝”に出会う旅

月刊 秘伝

武道・武術の秘伝に迫る

THE HIDDEN
BUDO & BUJUTSU

2018 DEC

12

“空手の神”が宿る島!

沖縄空手 ALL GUIDE!

沖縄空手
道場
MAP付

巻頭
記事

漫画『柔のミケランジェロ』
著者・カクイシ シュンスケ

新連載

長谷川智 羽黒派古修験道先達
“修験道”是即ち身心向上

第1回

東京国際伝統武術文化節

塚本昭義

“以武會友”

～武を以って友と会す～

李海

竹花智子

陸長青

徐広林

武術を以て
人々の交流を
盛んにす!

関連記事
54頁より

まさに、中国武術を通じて日本と中国の交流を盛んにする国際大会であった。
「第1回東京国際伝統武術文化節」は、中国からも高名な先生たちを多く招聘し盛大に行われた。
“以武會友”というスローガンの通り、戦いや護身の技術としての意味を超えて、
国を超えた交流と、人々の共存共栄、
平和を求めていくものとして武術を活かしていく――。
大きな理念のもと開催された第1回大会の模様をお伝える。



小集団の競技における演武。

第1回東京国際伝統武術文化節

“以武會友”

武術を以て人々の交流を盛んにす!

まさに、中国武術を通じて日本と中国の交流を盛んにする国際大会であった。「第1回東京国際伝統武術文化節」は、中国からも高名な先生たちを多く招聘し盛大に行われた。“以武會友”というスローガンの通り、戦いや護身の技術としての意味を超えて、国を超えた交流と、人々の共存共栄、平和を求めていくものとして武術を活かしていく——。大きな理念のもと開催された第1回大会の模様をお伝える。

取材・文◎横瀬知行

著名な功夫アクションスターであるジェット・リーの師匠、呉彬老師を最高技術顧問に迎えたほか、北京武術院

らる9月6日、木曜日、東京都中央区総合スポーツセンターにおいて、第1回東京国際伝統武術文化節が開催された。主催は一般社団法人 日本精武会連盟、日本徐広林太極拳俱樂部、日本太極養生道協会の三団体。また、日本武術太極拳連盟など日中の諸団体の後援のもとで行われた。中国武術の大会はわが国でも開催されているが、本大会の特徴は中国武術の国際大会として開催されたこと。中国武術協会2012制定版「伝統武術套路競技規則」および補足規定に基づき、中国および日本の公認審判員により審査採点が行われた。

東京で開催された
中国武術の国際大会

大会結果

各競技優勝者

【簡化24式太極拳Dの部】真下道(端午の会) / 【簡化24式太極拳Cの部】惠本悦子(徐広林太極拳クラブ) / 【簡化24式太極拳A・Bの部】申希雄(中日武術太極拳交流協会) / 【孫式太極拳の部】金子悦子(北関東武術連盟) / 【その他伝統太極拳、対練の部】高島和恵(やわらぎ会) / 【呉式太極拳の部】本多昌代(北関東武術連盟) / 【楊式太極拳の部】木根真知子(弥生会) / 【太極剣32式の部】猪島隆子(全日本導引養生功連盟) / 【太極剣42式A・Bの部】小林友以(やわらぎ会) / 【太極剣42式Cの部】惠本悦子(徐広林太極拳クラブ) / 【太極剣42式Dの部】李菊枝(多摩市太極拳連盟) / 【その他伝統太極器械Dの部】嶋村栄(中日武術太極拳交流協会) / 【その他伝統太極器械Cの部】眞伟志(香港太極首脳養生会) / 【その他伝統太極器械Bの部】莫泳蓉(香港太極首脳養生会) / 【規定套路総合太極拳48式・88式太極拳の部】小林友以(やわらぎ会) / 【陳式太極拳C・Dの部】阪本貞雄(北関東武術連盟) / 【陳式太極拳Aの部】青木カヤ(太極坊) / 【陳式太極拳Bの部】佐達正純(延元会) / 【伝統拳術Aの部】眞伟志(香港太極首脳養生会) / 【伝統拳術B・Cの部】永原智聡(石神井カンフークラブ) / 【自選長拳器械の部】柴浩敏(中国甘肅省蘭州武韻之夢武術学校) / 【伝統器械の部】永原智聡(石神井カンフークラブ) / 【小集体】香港太極首脳養生会(種目:呉式太極拳)

元副院長・北京武術協会監事長張有峰氏、河北省王其和太極拳協会主席壇杏敏氏、北京陳氏太極拳傳人徐剛氏、孫祿堂孫系太極拳傳人劉樹春氏、北京市八卦掌研究会副會長・北京子鳴武術文化協会會長李秀人氏ら、各門派の著名な老師たちが来賓として参加している。

競技は個人戦、小集体、大集体に分けて行われた。個人戦の部で200名、集体の部で650名、合計850名、35団体がエントリーしており、日本はもとより、中国、香港からも選手が集まっている。

「今年は日中平和友好条約締結40周年という節目の年。これを契機に、中国からも高名な先生をお呼びして、国際大会を開催しました。伝統のある拳法の先生方、そして優秀な若い中国武術の先生たち。彼等が活躍する場を設けると同時に、日中友好のため伝統ある中国の拳法を広く紹介したいという想いです」

本大会の会長を務め、日本精武会連盟、日中武術交流協会の会長でもある常松勝老師は、大会の意義をそう説明している。

国際大会開催の意義

棍や扇子功などの伝統器械の部が設けられる。昼に行われるエキシビジョンでは健身気功が行われ、制定拳から伝統拳、健身気功まで含む実に多くの武術が一堂に会することになった。



大会の始めに挨拶をする大会実行委員長の徐広林老師(一番右)と、横に並ぶ来賓の先生たち(左から李峰先生、日本武術隊監督・孫建明老師、北京武術院副院長・張有峰老師、聖采秀夫老師、眞彬老師)。

総括を務めた日本太極養生道協会の陳師老師にも、国際大会を開催した経緯を伺った。

「これまで日本国内で国際大会は行われていませんでしたから、それを初めて開催してみようということになったのです。国際大会ですから、審判方法も伝統的な6-2-2の採点基準を採用しました。動作規格は6点、動力、協調は2点、精神、リズムを2点として、四人の審判員が横一列に並んで採点を行います。」

競技



第1回東京国際伝統武術文化節では、個人戦、小集体、大集体に分けて競技が行われた。競技種目は、簡化24式、48式、88式、規定套路総合太極拳などの制定拳、陳式、楊式、呉式、孫式、沙式などの伝統太極拳、形意拳、八卦拳、八極拳、劈掛拳、翻子拳、通背拳などの伝統拳術、また武器術においても、劍術、刀術は制定形と伝統形にわかれ、さらに双節棍や扇子功などの伝統器械の部が設けられ、非常に多種多様な分類がなされていた。上掲の写真と右ページの写真は、小集体における演武。

国際大会を開催するにあたり、心配もありました。中国からのくらしい選手が集まるのか、未知数の部分がありました。日本と中国、最近では必ずしも関係が良いとは言えない。しかし中国では日本ブームという動きもあり、日本に関心を持つ中国人は少なくないのです。旅行を兼ねて、日本に来る選手もいるのではないかと、そんなことを考えながら、大会の準備を進めていました。

今回は中国から著名な先生方、そして選手が参加しています。中国の先生や選手を招聘するために、徐広林先生の人脈が大きかったと思います。おかげで本大会が国際大会として成り立つことになりました」

大会の実行委員長を務めた徐広林老師は、日中の武術界で培った人脈を生

書や絵画の展示



▲(上)日中群星草草特別表演で演武も披露した李暉先生と、ご自身が描かれた観音の掛け軸と、(下)展示作品とともに、大会の実行委員長・徐広林老師と楊括・陳輝老師(写真真左)。



しかし、国際大会を成功させた功労者でもある。東京で国際大会を開催した理由の一つに、オリンピックがあるという。

「日本で中国武術の国際大会を開催する意義。その一つに、中国武術をオリンピック競技種目に採用させようと努力している中国武術の仲間たちに力を添えたいということがあります。」

従来の伝統武術には、民間の運動健康増進のためのものというイメージがありました。それを、オリンピックにも参加できる競技種目として認識してもらおう。国際大会の開催には、そういう意図があります。大会には、日本はもとより、中国からも多くの団体が参加しています。呉彬老師など、世界的に著名な先生方にも参加いただきました。香港から来られた李暉先生は、アクションスターでもあり、太極拳のチャンピオンとして輝かしい経歴をお

みんなで武術太極拳を体験しよう!



大会における競技と表彰式が終わった後、「老師の動きを真似して武術太極拳を体験してみよう」というコーナーが設けられていた。多くの参加者が普段師事している先生とは違う先生の後ろについて、その動きを真似た。「いつもと違う先生の動きを学んでみるのも、とてもよい経験になるでしょう」と、大会実行委員長の徐広林老師は言う。



インタビューに答える常松老師。大会の会長を務める常松老師は「中国の拳法を日中の友好のために活かしていきたい」と抱負を語ってくれた。

持ちです。そういう方に参加をお願いして、伝統武術のイメージを高めていこうと考えました。

また、通常の武術大会では行われていない試みも行っています。それは武術家として高名な方々の、隠れた一面、文人としての面に着目し、書や絵画などの展示を行いました。武と文は表裏一体。高名な武術家の先生は、書の世界でも高名な方が多いのです。武術と文化。どちらも修練を通じて心と身体を修めるものです。武術はいま、修練の一つであり、身を修め健康を得るための運動文化になりつつある。単なる戦いの技術、護身の技術では止まらない価値があるのです。

伝統武術にいう「伝統」とは、歴史のみをさすものではありません。そこには人の繋がりがあり、人脈が生まれます。私は武術を愛好する者として、流派、グループ、組織間の壁を取り除き、互

いに協力して、発展する武術の未来像を描ければ嬉しいと思います」

香港太極拳養正生會主席の李暉老師は、大会に参加しながら三幅の掛け軸を展示されている。掛け軸に描かれた観音は、穏やかな表情で出場者たちを見守っているようだった。お話を伺うと、日本を訪れる度に寺社を巡り、兵庫県の寺で在家の門徒にもなっているという。

「日本は中国から伝承されていた文化を継承し、発展させて独自の文化を生み出しています。そういう文化伝承の姿を見て、とても感銘しています。」

武術は一つの伝承というものであり、文化としても一つの伝承であります。心を修めるとき、動と静の二つの面を修めることができます。動の面では武術で身を修め、静の面では文で修める。観音様も全てを捨てて、空になつて身を修めた。私も観音様に倣い、動と静

を修めていきたいと考えています」

「以武會友」に込められた想い

本大会の趣旨として、「以武會友 和諧共榮 健康発展」とスローガンが掲げられている。武術を通じて国を超えた交流を図り、人々の共存共榮、平和を求めていく願いが強く感じられた。大会の会長を務める常松老師は、中国残留孤児として中国で育ったという。

「両方の文化を知る者として、また平和の大切さを知る者として、日本と中国の友好関係を発展させることが私の使命だと思っています。そして日中友好が、アジアの平和、ひいては世界平和に繋がると信じているからです」

常松会長の言葉からは、強い使命感が感じられる。「中国武術は中国だけのものではなく、世界の文化であり、全ての人のために

あります。「以武會友」という言葉があるように、武術を以て人々との交流を発展させたいという想いがあるのです。文化も違い、言葉、人種、習慣も違う。そんな世界中の人たちが、同じ武術を学ぶことで交流を深めていきたい。戦いの技術として発展した武術ではあるのですが、その武術を世界中の人々が学ぶことで、世界平和に貢献したい。それが、武術を継承する私たちの願いです。

太極拳社の姜馳老師は、武術を通じて交流を通じ、平和へ貢献する願いを述べている。

「東京国際伝統武術文化節」という大会名が示すように、世界基準の競技会であると同時に、武術文化の節日、すなわち祝祭フェスティバルという意味もあるのだろう。大会の最後には、著名な老師と一緒に太極拳を体験するイベントや、フィナーレとして行われる「日中群星薈萃特別表演」で、日中の老師たちの特別表演が行われる。

「いつも学んでいる武術とは異なる门派、先生から武術を学び、体験するのにも、広く中国武術を学ぶ良い経験となります。中国武術は多くの门派がありますが、どの门派も拳理は一緒。套路や動作に違いはありますが、最終的に到達する境地は同じであると私は考えています。一つの武術がうまくできれば、他の武術もうまくなる。一つの武術に熟達できなければ、どんな武術をやってもうまくはいきません。昔は、習う拳法を変えることは非常

武術オールスターズフィナーレ～日中群星薈萃特別表演～



に難しいことでした。拳法の先生に就いたら、その先生が亡くなるまでは他の拳法を習うことは難しかった。でも、他の拳法を学んでみたいと考える人は多いです。今は、それができる時代。色々な拳法を学ぶことで、知識を得ることができましょう。常松老師が、体験交流の意義を説明された。最後に行われたフィナーレは、中国

から来日された老師たちに加え、佐藤省三、出口衆太郎、田中努、竹花智子ら日本側の老師が加わり、1時間以上にわたる表演が行われた。武術は戦闘の技術として生まれ、今は心身を修める文化として、異文化を繋げる交流の架け橋として、大きな役割を果たす潜在力を秘めている。今回の大会を主催した、老師たちの想いが実を結ぶことを、願ってやまない。

大会のフィナーレを飾ったのは、日中の先生たちによる表演。武術オールスターズと銘打たれた通り豪華なダンパーによる表演が披露され、盛大に行われた第1回東京国際伝統武術文化節の幕が下りた。